

令和8年2月吉日

世田谷区立桜小学校
校長 大曾根 博美 様

世田谷区立桜小学校
学校関係者評価委員会

令和7年度 学校関係者評価報告書

＜学校関係者評価委員＞

委員長： 須藤美子

委員： 菅田友美, 泊裕久, 中島隆明, 山田和美（五十音順）

<学校関係者評価委員活動>

- 令和7年 7月：第1回評価委員会（独自項目の決定）
- 令和7年 10月：学校評価アンケート 実施
- 令和7年 12月：学校評価アンケート 結果集計
- 令和8年 1月：教員との面談
- 令和8年 2月：学校関係者評価報告書 作成・提出

<学校関係者アンケート集計結果分析>

児童

○ 学習について

- ・ 「学ぶことが楽しい」に対して、85%以上が肯定的回答であった。
昨年度より肯定的回答が増加している。
- ・ 「先生は、課題（めあて）について、授業の中で自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取っている」については、肯定的回答が95%以上と高評価となっている。
- ・ 「授業では、考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会がある」については92%以上の肯定的回答があった。
『児童が主体的に自分の考えを発言するために、問題意識や相手意識をもたせ、自ら改善しようとするための活動が必要と考えている学校の工夫』が、成果となって出ていると考えられる。
- ・ 「先生は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」については、91%以上が肯定的回答であり、その中で「とても思う」と回答した児童は60%以上であった。
昨年度に続き、良好な状態を維持している。

○ 生活指導について

- ・ 「学校のきまりを守って行動している」に対しては、肯定的回答が約87%あった。
昨年度、肯定的回答が減っていたが、今年度は10%以上増えた。
- ・ 「学校のきまりを守らない児童に、先生は注意をしている」に対しては、肯定的回答が90%、「先生に注意されたことは、理解できる」に対しては、96%以上であった。

○ 学校行事について

- ・ 「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」の両設問に対しては、93%以上の肯定的回答があった。「先生は、児童の意欲を大切にしている」に対しても、91%と高評価になっている。
先生方が児童の意欲を大切にしていることが、楽しさや達成感につながっていると考えられる。

○ キャリア教育について

- ・ 「自分の将来のことについて、考える授業がある」には、約74%の肯定的回答があり、「目標をもち、その実現に向けて努力している」に対しては、約83%だった。

両設問とも昨年度と同等の結果であった。

- ・「自分の将来に夢や希望を持っている」に対しては、約 80%の児童が「とても思う・思う」と回答しており、「とても思う」が 60%近くとなっている。

○ 先生について

- ・「先生たちは、ていねいに指導してくれる」に対して、約 95%の児童が「とても思う・思う」と回答。「とても思う」が約 70%となっている。
- ・「困ったときに、先生に相談できる」には、約 80%の児童が「とても思う・思う」と回答。

昨年度は約 60%であったが、肯定的回答が大幅に増加している。

○ 学校生活全般について

- ・「学校が好き。学校生活が楽しい」に対して、肯定的回答が 86%以上であった。
- ・「家で宿題やタブレットを使った学習をしている」に対しては、昨年度より増え、肯定的回答が約 76%あった。
宿題の提出にタブレットの活用が増えていることが理由として考えられる。
- ・「学び舎の中学校や小学校と交流したり、一緒に活動したりする機会がある」に対して、71%以上の肯定的回答があった。

○ わたしについて

- ・「自分には良いところがあると思う」について、肯定的回答が約 74%、「誰かの役に立っていると思えることがある」についても、約 71%あった。それに対し、「わたしは、友達の良いところを素直にほめることができる」については、87%以上の肯定的回答があった。
自身のことになると控え目になるが、友達のことは素直に認められる児童が多数いることが想像できる。
- ・「授業中、積極的に手をあげたり、発言したりしている」については、肯定的回答が 51%であり、昨年度 41%から 10%増加している。
- ・「自ら進んで運動をしている」についても、昨年度は 59%であったが今年度は 70%以上の肯定的回答があり、10%以上増加している。
先生方が休み時間に一緒に遊ぶ時間を作っていることや、できるだけ外に行くように声掛けをしていること、また体育館も遊び場として開放し、たてわりで遊ぶ機会や朝遊びの時間を作るなど学校が日常的運動習慣につなげられるように取り組んでいる成果だと思われる。
- ・「近所の人や地域の人にあいさつを自分からしている」については、昨年度も 75%以上の肯定的回答があったが、今年度は更に増加して 80%以上となっている。
代表委員会があいさつ週間以外でも、積極的に当番を作ってあいさつしていることが、増加した大きな理由と考えられる。
- ・「家の人に学校でのできごとをよく話す」に対しては、76%以上が肯定的回答になっている。

- ・ 「学校のみならず協力し合っている」に対して、83%以上の児童が肯定的回答であり、昨年度に続き、良好な状態を維持している。

保護者

○ 学習指導について

- ・ 「本校は、子供が考えることや課題を解決することを大切に授業を行っている」に対して肯定的回答が82%以上、「子供が考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」に対しては87%以上、「映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」に対しては、76%以上だった。
保護者の授業に対する満足感がうかがえる。

○ 生活指導について

- ・ 「学校での過ごし方やルールについて、子供に考えさせる指導をしている」については、肯定的回答が82%以上、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて、子供が理解している」についても約90%と高評価を得ている。
両設問共昨年度より大幅に増加している。

○ 学校行事について

- ・ 「学校行事は、子供にとって楽しい」「子供にとって達成感がある」の2つの設問には約95%の肯定的回答があった。「子供の意欲を大切にしている」に対しても、88%以上と高評価であった。
保護者も子供達と同様に学校行事に対して、満足感を得られていることがうかがえる。

○ キャリア教育について

- ・ 「本校の教員は、子供に目標を持たせ、その実現のために支援している」に対して約74%の肯定的回答があった。
- ・ 「子供の将来のことについて考える授業をしている」という設問に対して、昨年度は肯定的回答が52%だったが、今年度は62%以上と増加している。
学校がキャリア教育の一環として行っている授業などについて、学校だよりやホームページで発信した成果だと考えられる。

○ 教職員について

- ・ 「本校は、丁寧に指導をしている」には約88%、「子供のことを相談しやすい」には約83%肯定的回答があった。両設問共に高評価であった。

○ 学校生活全般について

- ・ 「学校生活は、子供にとって楽しい」に対して、肯定的回答が約90%だった。
- ・ 「家庭で自主的に学習している」に対しては、肯定的回答が約62%だった。
- ・ 「学び舎による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」に対して肯定的回答は約61%と、昨年度より若干増加した。
- ・ 「本校の教育活動に満足している」に対しては、肯定的回答が85%以上と高い評価が得られている。
- ・ 「子供は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」に対しては、79%近い肯定的

回答となっている。

○ 学校からの情報提供について

- ・ 「お便りやホームページ、すぐーるを使っての情報提供」については、95%の肯定的回答があり、情報提供については十分な理解が得られている。
- ・ 「学び舎の幼稚園や区立中学校についての情報提供」に関する設問では、昨年度は肯定的回答が半数以下であったが、今年度は70%近くとなっており、大幅に増加している。
- ・ 「学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる」に対しては、90%以上の肯定的回答が得られている。

○ 学校運営について

- ・ 「保護者に学校経営方針を伝えている」について、86%以上の肯定的回答を得ている。保護者会で説明したり、イメージ図を取り入れたお便りを作成するなどの成果と考えられる。
- ・ 「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」については、92%以上の肯定的回答があった。
桜小の教職員像に『700人の子供たちを全教職員で育てる』とあり、このことをしっかりと実践できていることが高い評価に繋がっていると考えられる。

○ 家庭と学校との連携や関りについて

- ・ 「今年度の学校経営方針を理解している」については、約70%の肯定回答があった。学校経営方針を伝えられていると86%以上の保護者が認識しているが、「理解」となると減少している。
保護者会などで繰り返し説明していただき、理解してもらえることを期待する。
- ・ 「学校公開や学校行事、PTA主催の行事などに進んで参加したり、協力している」に対して、肯定的回答が80%近くあった。昨年度は60%ほどだったため、かなり増加した。
- ・ 「家庭では、あいさつの習慣を身に付けさせている」については、87%以上の肯定的回答となっている。
- ・ 「子供とテレビやスマホ、タブレットなどを見たり使ったりする時間や出かける時の約束など、ルールを決めている」については、80%以上の肯定的回答があった。
- ・ 「家庭では、日頃から子供に家庭での役割を与え、決まったお手伝いをさせている」については、全学年、肯定的回答が低めとなっている。
- ・ 「家庭では、集団生活の中でみんなが気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、気持ちを抑えたりすることの大切さを伝えている」に対しては、肯定的回答が95%以上だった。
- ・ 「子供の良さや努力を認め、ほめるようにしている」に対しても、95%以上の肯定的回答があった。
- ・ 「私は、子供から学校でのできごとをよく聞く」は88%以上の肯定的回答となっている。

- 学校と地域との連携や関りについて
 - ・ 「地域の人や施設を教育活動に生かしている」に対しては、肯定的回答が86%以上であり、「学校が地域活動に協力的である」に対しては、約90%だった。
 - ・ 「プロジェクト桜について知っている」に対しては、6年生の保護者には肯定的回答が半数以上あったが、他学年は半数以下であった。
- 学校の安全性について
 - ・ 「安全な学校づくりを進めている」については、90%近くの肯定的回答となっており、「避難訓練やセーフティ教室などで、子供に安全に関する指導をしている」に対しては96%以上、「自然災害時の対応を、子供や保護者に提供している」に対しても92%以上となっていた。

学校生活中の避難訓練だけでなく、地域との合同訓練をするなど『安全』について熱心に取り組んでいる結果と考えられる。

地域

- 生活指導について
 - ・ 「通学している子供たちは、交通ルールなどを守っている」については、ほぼ90%の肯定的回答があった。
- 学校行事について
 - ・ 「学校行事の内容は充実している」「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある」に対しては、両設問とも93%以上の肯定的回答が得られている。
- 学校からの情報提供について
 - ・ 「学校からのお知らせなどにより、学校の様子が分かる」については、100%の肯定的回答となっており、学校が地域を大事にしており、それが地域の方に届いていることがうかがえる。
 - ・ 「学び舎の活動について、情報が提供されている」については、75%以上の肯定的回答があった。
 - ・ 「学校公開や道徳地区公開講座などで、学校の様子が分かる」については82%以上の肯定的回答があった。
 - ・ 「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」については、約79%の肯定的回答があった。
- 学校運営について
 - ・ 「学校経営方針が明確である」「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」の両設問に対して、ほぼ90%の肯定的回答があった。

地域の意見に対する学校の対応に満足感がうかがえる。
- 地域との連携について
 - ・ 「地域の人や施設を教育活動に活かしている」に対して、ほぼ90%が肯定的回答で、昨年度と変わらない。
 - ・ 「学校協議会や学校支援本部が役割を果たしている」「学校運営委員会は活動を周知

し、役割を果たしている」の両設問に対して、75%以上の肯定的回答があった。

○ 学校の安全性について

- ・ 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」については、96%以上の肯定的回答があり、学校の対応に十分理解されているのがわかる。
- ・ 「学校は、安全性を高めようと、訓練など地域と協力している」についても86%以上の肯定的回答があった。
安心・安全な学校づくりに十分理解されているのがわかる。

○ 桜小学校との関わりについて

- ・ 「地域は、桜小学校や子供たちと仲良しだ」に対して、96%以上の肯定的回答が得られている。
- ・ 「プロジェクト桜の考えは、共感できる」に対して、86%以上が肯定的回答となっており、プロジェクト桜の考えが浸透、周知されているのがわかる。
- ・ 「桜小学校は地域と上手に連携していると思う」に対して、93%以上の肯定的回答があった。
- ・ 「学校行事に協力したいと思う」に対して、93%以上が肯定的回答であり、桜小学校が地域にとって大切な存在であることがわかる。
- ・ 「地域で開催する行事への子供たちの参加が楽しみだ」に対して、90%近くが肯定的回答であった。

<総括>

昨年度に続き、今年度も評価委員会として指摘すべき大きな問題はみられなかった。

アンケート結果からは、児童・保護者・先生方で信頼関係が築かれていることが読み取れた。信頼関係は学校経営の要になり、学習指導や生活指導の効果を高め、児童の成長に繋がると考えられる。先生方との良好な関係の中で児童が楽しく健全に学校生活を送っていることも伝わってくる。また、友達を大切に作る気持ちが育まれている児童が多いこともわかる。

保護者については、先生方の指導に対して満足感を得ていることがわかる。教育活動に理解を示し、児童から伝わってくる学校の楽しさを保護者も感じていることが読み取れる。学校の安全性についても訓練や指導・対応を通して理解し、安心を感じていることが伝わってきた。

先生方との面談では、地域性も関係しているようで、素直で優しく気持ちに余裕のある児童が多いということだった。また、学校生活サポーターの多さに驚きと感謝を述べる先生も多かった。桜小の学校生活サポーターは地域の人達で構成されている。地域との結び付きが強いという特性を生かしているのだろう。行事が多いこと、行事が長きにわたり継続されていることもその特性を学校が大切にしている結果だと思う。今後も変わらない関係でいてほしいと思う。

昨今、「働き方」という言葉を耳にすることも多いが、校長先生、副校長先生がしっかりとリーダーシップを発揮しているとのことで、職員室の雰囲気は良く、働きやすい環境と話されており、面談中の先生方の様子からも仲の良さが伝わってきた。『問題があっても先生同士の関係が良いため乗り切ることができ、病欠する先生がいない』と誇らしく話される先生方の様子が印象

的だった。

児童・保護者・先生方にとって、今後とも楽しい学校づくりができることを期待する。

保護者や地域とのつながり・連携が強いという強みをもつ桜小学校において、本評価報告が児童たちのさらなる充実した学校生活の一助となることを願って報告とする。

以上